

## 令和4年教育福祉委員会会議録

1. 招集年月日 令和4年2月16日
2. 招集の場所 可児市役所5階全員協議会室
3. 開 会 令和4年2月16日 午後2時28分 委員長宣告
4. 協議事項
  - 1 報告事項
    - (1) 新型コロナウイルス感染症患者の市内発生状況について
    - (2) 新型コロナワクチンの追加接種（3回目）について
    - (3) 市内小中学校における新型コロナウイルス感染状況について
  - 2 協議事項
    - (1) 議会報告会のまとめについて

### 5. 出席委員（6名）

委員長	川合敏己	副委員長	中野喜一
委員	伊藤健二	委員	山根一男
委員	板津博之	委員	勝野正規

### 6. 欠席委員（1名）

委員 林 則 夫

### 7. 説明のため出席した者の職氏名

こども健康部長	伊左次 敏 宏	教育委員会事務局長	渡 辺 勝 彦
健康増進課長	後 藤 文 岳	新型コロナワクチン 接種推進室長	渡 辺 博 生
学校教育課長	今 井 竜 生		

### 8. 職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	宮 崎 卓 也	議会総務課長	下 園 芳 明
議会事務局 書記	林 桂太郎	議会事務局 書記	今 枝 明日香

○委員長（川合敏己君） それでは、定刻前ではございますけれども、皆さんおそろいでございます。

ただいまから教育福祉委員会を開会いたします。

本日の会議につきましては、御覧のとおりオンラインを併用しまして、山根委員がオンラインによる出席となります。よろしくお願いいたします。

また、林委員につきましては欠席となりますので、御承知おきくださいますようお願いいたします。

それでは、これより議事に入ります。

発言をされる方は委員の方も執行部の方も挙手をして、委員長の許可を受けてからマイクのボタンを押して発言をお願いします。

それでは初めに、1. 報告事項、(1)新型コロナウイルス感染症患者の市内発生状況についてを議題といたします。

執行部の説明を求めます。

○こども健康部長（伊左次敏宏君） よろしくお願いします。

1月に入りまして急に拡大をし、ということで、議員の皆様にも大変御心配をおかけしておると思いますけれども、そういった状況と県の対策を受けての動き、そういったところを今日報告をさせていただきます。

また、その後2項目めでは、ワクチンの接種が2月から入ってきておりますので、そういった点についても報告をさせていただきます。

それぞれ担当課長のほうから説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（川合敏己君） よろしくお願いします。

○健康増進課長（後藤文岳君） よろしくお願いします。

それでは、私のほうからは新型コロナウイルス感染症の感染状況について説明させていただきます。

資料番号、資料1の1ページを御覧ください。

これは、可児市の週単位患者数と累計をグラフにしたもので、週単位である棒グラフは日曜日から土曜日を1週間とし、8月以降のものを載せています。折れ線グラフは患者数の累計となっています。

週単位の棒グラフを見ていただくと、第5波である8月から9月にかけて山ができています。第6波である1月以降も山ができておるんですけれども、第5波の山の大体4倍から5倍ぐらいの大きさの山となっております。

折れ線グラフのほうは、10月27日以降ゼロが続いて、12月1日に1人感染が確認されておるんですけれども、その後、1月に入り急上昇しています。

可児市の感染症患者の累計、一番右側の四角で囲ってある数字、これ2月12日現在で3,017人となっておりますけれども、1月、2月で半分以上である1,527人が発生していま

す。この増加傾向というのは全国的に見ても同じ現象であるんですけども、最近増加速度が鈍化していると言われてはいますが、まだ感染者の数は高い水準にあります。

次、2ページを御覧ください。

これは、第5波と第6波の患者数を年代別に棒グラフにしたものでございます。オレンジが男性、ブルーが女性となっています。折れ線グラフについては、年代別患者数のうち外国籍の方の割合を示しています。

第5波と第6波では、男女比に大きな変化はないんですけども、第5波の棒グラフでは、患者の多い年代は、20代、30代、10代、40代となっています。ですが第6波では、年代、20代、30代は変わらないんですけども、その次に10歳未満、10代となっています。これは家庭や学校、保育園などで感染が増加しているということが考えられます。

第6波の外国籍の割合は、折れ線グラフを見ていただくと第5波よりも相対的に下がってはいるんですけども、患者数としては多数出ているということになっています。

次、3ページを御覧ください。

新型コロナウイルス感染症への対策状況ということで、国、県、市の対応を時系列にさせていただきます。

まず、12月28日に岐阜県が無料検査を開始し、可児市内では現在6か所で無料検査ができるようになっています。

1月13日には、年末年始の友人との会食等のクラスターが発生したため、これまで以上の感染防止を市民や事業者に呼びかけるために、市から緊急メッセージを发出了しました。

1月17日には、岐阜県が第6波非常事態宣言を決定しました。内容としては、まん延防止等重点措置による時短要請等ですね。あと、学校による対応方針として、学級で一人でも陽性が判明した場合の学級閉鎖と、あと各市町村において独自の感染防止強化対策の策定などが盛り込まれていました。また同日には、パークホテル可児が療養者の受入れを開始しました。

1月19日には県の非常事態宣言を受け、可児市第6波非常事態宣言を发出了しました。内容としては、記載させていただいておるとおりでございます。

4ページを御覧ください。

1月21日に岐阜県がまん延防止等重点措置区域に指定されました。

22日には、感染症患者の増加により自宅療養が開始されました。また同日に、市では飲食店への時短要請の依頼を実施しております。

次、1月28日ですけども、この日に濃厚接触者の自宅待機期間が7日間に短縮されました。また無症状患者についても7日間を経過すれば療養解除が可能ということに制度が変わりました。

2月2日には、自宅療養をする感染者と同居する家族の待機期間が、今まで最大17日間であったものが7日間に短縮されました。

2月4日には、保健所運営を支援するために、市職員1名を県に派遣をしました。また、

昨日急遽決定したんですけれども、新たに1名の保健師の派遣依頼が県からあったため、明日から健康増進課の保健師を保健所へ派遣いたします。

2月6日には、市内医療機関でクラスターが発生。

2月7日には、自宅療養支援チームを健康増進課に設置しました。これは県からの依頼によるもので、内容としては、自宅療養者の連絡途絶者の安否確認、委託業者による配送が滞った場合の物資配送を必要に応じて連携するというものでございます。また、県からの物資配送まで即時食料が必要と要請があった場合は、2日分程度の食料を置き配することを考えています。現時点ではそういった要請はありません。

2月10日には、岐阜県のまん延防止等重点措置の期間が3月6日まで延長が決定をいたしました。

まだまだ可児市の感染症患者の数、非常に昨日も多かったんですけれども、引き続き感染症予防対策をお願いしてまいりますので、皆様も御理解と御協力をよろしく申し上げます。

私のほうの説明は以上です。

○委員長（川合敏己君） ありがとうございます。

説明は以上でございますか。

○健康増進課長（後藤文岳君） はい。

○委員長（川合敏己君） それでは、今の説明に対して、委員の皆さんから質疑があれば願います。

ちょっと待ってください。

暫時休憩とします。

休憩 午後2時37分

---

再開 午後2時37分

○委員長（川合敏己君） 会議を再開いたします。

それでは、質問、質疑がありましたら願います。

○委員（板津博之君） 分かったらで結構なんですけど、可児市民で自宅療養をされている方の人数って、市のほうでは把握されているんでしょうか。

○健康増進課長（後藤文岳君） 県のほうから確認をしておるものとしては、現時点では486人というふうに聞いております。以上です。

○委員（板津博之君） すみません、もう一点。

先ほど課長の説明で、1月17日にパークホテル可児が療養者を受入れ開始ということだったんですけど、可児市のいわゆる療養施設の受入れ人数というのは、市として把握されていますでしょうか。

○健康増進課長（後藤文岳君） 県のホームページに掲載はされておるんですけれども、パークホテルの2月15日時点の受入れ人数としては15人という記載となっております。以上です。

○委員（板津博之君） 今日の中日新聞の岐阜県版によると、自宅療養者数が県内で14日現在

で4,426人と、可児市の15日の感染者数が97名ということで、県のほうとしても1,234名で1,000人超えということになってはいますけれども、すみません、前置きが長いですが、もう一点、最後ですけど、可児市の自宅療養者支援チーム、今のところ、県のほうから要請はないということなんですけど、これ何人体制でチームをつくられたのか教えていただけますか。

○健康増進課長（後藤文岳君） 何人体制というか、チームという名称はつけておるんですけども、健康増進課で対応させていただく。ただ、その後どういった県からの要請等あった中で、件数が何件あるかというのはまだ分からないので、それを踏まえて他課への応援を考えていくということを考えております。以上です。

○委員（板津博之君） 後ほど市内の小・中学校におけるという感染状況の説明もあるかと思うんですけど、市としてこの今の、昨日97名ということで、このところの感染者の増減というか、推移を見ていてどのように、これは県のほうからもあるかもしれないですけど、傾向をどう分析されているかというのは、部長、何か所感はありますでしょうか。

○こども健康部長（伊左次敏宏君） 1月当初、感染者の方が急に拡大してきたときは20代の方が圧倒的に多かったんですね。その後、10代、それから10歳未満、あるいは1歳未満ということもあれですけど、特に小・中学生、それから保育園、幼稚園の年代のお子さん、そういった方、集団生活の中できっと、これは私の想像のところもあるんですけど、無症状、症状がほとんどなく普通に生活されてみえて、学校や保育園、幼稚園へ行ってそこで広がったんじゃないかなあというふうに思っています。

また学校のほうからも報告があると思うんですけども、今まで小学校でいうと今年の9月に22名ぐらい小学校で出ているんですね。今年の1月はもう60名ですし、私のほうでつかんでいる数字ですけども、2月になるとそれを超えてもう、まだ今日は16日ですかね、今日の時点でもう100名を超えているという状況です。それはやっぱり無症状、本当に症状がない中でのクラスの中での拡大というか、広まってしまって、それがそれぞれお子さんが御家庭に、当然御家庭に帰られて家族の方が感染していくということで、傾向として、10代とか10歳未満の方が増えて、その次に増えたのが30代、40代、その親の世代が増えているということで、それは今までになかった傾向です。

それで、例えば1月で申し上げますと、20代は19%、10代以下が29%を占めています。次に来るのは30代、40代ということで、今回は、これは可児市だけではないのかもしれませんが、特徴です。これは市長のほうで、この間県のほうからこんな話があったよということでお聞きしたんですけども、この小・中学生、10代以下が多いのは、県内でいうと美濃加茂市、それから可児市が顕著だということですので、またそこに端を発して家庭でという、家庭の家族構成が多いという、これは特に外国籍市民の方の特徴でもありますけれども、そういったところで全体の数として増えているのかなあというふうに思っています。

○委員長（川合敏己君） 他にございますか。

山根委員、ミュート解除をお願いします。

○委員（山根一男君） はい、しました。

○委員長（川合敏己君） お願いします。

○委員（山根一男君） 12月28日に無症状の方などを対象とした無料検査の実施ということですけれども、ウエルシアとかVドラッグでできるということなんですけど、これの実績といえますか、ここでどうやってやるんでしょうかね。その場で分かるんでしょうか、あるいは俗に陽性となった場合どういう手続になるのかはちょっと、規模とかがよく分からないんですけど、いかがでしょうか。

〔発言する者あり〕

○委員長（川合敏己君） ちょっと暫時休憩します。

休憩 午後2時45分

---

再開 午後2時46分

○委員長（川合敏己君） それでは会議を再開いたします。

○委員（山根一男君） 12月28日から2月28日までウエルシアあるいはアオキ、Vドラッグで無料の検査をしているというんですけれども、この実績、あるいはここで陽性者が出ていくかどうかとか、その辺のことは情報はありませんでしょうか。

○委員長（川合敏己君） 執行部の答弁をお願いします。

○健康増進課長（後藤文岳君） 可児市の中のものというのはちょっと分からないんですけれども、県のホームページ上でそういった数字が出されています。

検査実施数、件数としては県内全体として2万4,566件で、うち陽性が323件ということになっています。陽性となった場合については、医療機関を受診し、医師の診断を受けていただくということになっております。以上です。

○委員長（川合敏己君） ありがとうございます。

○委員（山根一男君） 分かりました。

陽性者は自主的にそれは行くんでしょうかね。薬局のほうからそれは連絡が行くんでしょうか。

○委員長（川合敏己君） 聞き取りづらかったので、山根委員、もう一度お願いします。

○委員（山根一男君） 陽性と判断するのは薬局ですか、あるいは本人ですか。その場合、どういう手続でそれが保健所に行くんでしょうか。

○健康増進課長（後藤文岳君） 本人の自主的に医療機関にかかっているという形になります。以上です。

○委員（山根一男君） 了解です。

○委員長（川合敏己君） 他に委員から、ほかの委員からございますか。

〔挙手する者なし〕

それでは、ないようでございますので、この件に関しては終了させていただきます。

次に、(2)新型コロナワクチンの追加接種（3回目）についてを議題といたします。

執行部の説明を求めます。

○新型コロナワクチン接種推進室長（渡辺博生君） よろしく申し上げます。

新型コロナワクチンの追加接種につきまして、現状を御説明申し上げたいと思います。

資料2をお願いいたします。

まず、接種実績でございます。

今回の3回目追加接種は、2回目接種が完了した18歳以上の方が対象となっております。現在3回目接種が完了している方は、2月9日現在で1万345人になっておりまして、2回目接種した方の13.69%の方が終了しているところでございます。そのうち、下の表になりますが、65歳以上の方につきましては、2月9日時点で4分の1以上の方が終了しているということになっております。ちなみになんです、本日この会場へ出かける前にちょっと確認をしてきたところ、1週間後ということになりますが、3回目の全体が1万6,038人、率にすると21.2%、うち65歳以上の方が1万2,466人ということで、44.9%となっております。65歳以上の方につきましては、2回目接種されたおおむね半分まではいきませんが、それに近い数字のところまで接種を終えているというのが現状でございますので、御報告を申し上げたいと思います。

続きまして、2番目に、ワクチンの供給状況でございます。

3月20日までに武田・モデルナ社製とファイザー社製で5万6,880回が供給される予定となっております。この供給状況を確認しながら現在接種を進めているところでございます。

2種類のワクチンの供給割合としまして、これまでは武田・モデルナ社製が45%、ファイザー社製が55%ということをお願いしてきましたが、現状では武田・モデルナ社製が約6割、ファイザー社製が約4割ということで、可児市のところには来ているということになっております。ただ、今後、本日の報道等もございましたとおり、国が供給をどんどん進めてくるということになっておりまして、全体としましては武田・モデルナ社製が55%ほど、ファイザー社製が45%ぐらいになるんじゃないかなあとということで予想しているところでございます。

3番目としまして、65歳以上の一般高齢者の予約状況でございます。

医療機関の格別な御尽力を賜りまして、市内の24の医療機関で接種をお願いすることができております。あと保健センター1か所を含めまして、合計25の医療機関で現在接種を進めているところでございます。

先般御説明を申し上げましたとおり、市ではおまかせ先行予約というものを実施させていただいたところでございますが、そのおまかせ先行予約、65歳以上なんです、対象者2万6,134人のうち、武田・モデルナ社製を使用する病院で了承をいただいた方が1万7,270名お見えになりました。その後、御事情もあって変更等された方が500名ほど見えるわけですが、2月9日現在では1万6,734の方が武田・モデルナ社製ワクチンを接種、または予約を完了しているという状況でございます。

あと、診療所、クリニック系につきましては、ファイザー社製を使用するというところにさせていまして、予約接種した方につきましては、5,450人になっているところ

でございます。括弧書きでそれぞれ対象者の割合を書かせていただいておりますので参考にいただければと思っております。

また、全国では接種が進まないということも報道されております。その要因として、2回目と交接種となる武田・モデルナ社製の予約が入らないということが挙げられておるのは御承知のことだと思っておりますが、本市におきましては、先ほども御説明申し上げたとおりおまかせ先行予約ということを行ったこと等もございまして、ワクチンの種類に関わらず予約を受付させていただいて、接種が順調に進んでいるということだと思っております。

裏面をお願いいたします。

4番目としまして、対象者と接種券の発送等スケジュールをお知らせさせていただきます。

今回は電話やウェブの混雑を避ける観点から、2回目の接種日を基準としてグループ化し、グループごとに接種券の発送や予約の受付、接種開始等を決めさせていただいております。現在までに4回の予約を受け付ける日が終わりましたが、分けた効果もあると思っておりますが、各日とも大きな混乱はなく、今のところは順調に予約を承ることができているというふうに考えております。

スケジュールの表、真ん中辺りを御確認いただきたいんですが、現在のところは65歳未満の方への案内や接種が始まる頃となっております。ちょうど昨日の夕方なんですが、2回目を8月17日までに接種された方、1万3,800名ほどの方に接種券を発送させていただいたところでございます。

また今回の追加接種につきまして、これまで事務の取扱いの中でちょっと対応が難しいなあと思うところは、接種間隔、前倒しの変更による対応でございました。当初は御承知のとおり8か月というルールがございました。現在は一般高齢者が7か月、一般は8か月というルールで行っておりますが、ワクチンがあって予約の空きがあるのならば、一般の方も6か月で前倒して接種することは差し支えないということで国から通知をいただいております。今後は6か月対応ということで、可児市のほうも進めていきたいというふうに考えておるところでございます。

また、現在先行接種ということで、さきの感染状況もございました保育士や教職員、それからキッズクラブの指導員に先行で接種を進めております。そういう方につきましても、今、既に6か月の接種間隔で接種を実施しているところでございます。

一方で、最短でも6か月経過していないと接種することができないというルールでございますので、6か月未満で接種券を送付することで6か月未満で接種することができてしまうという間違い接種を誘発する可能性がございます。事務担当としましては、その辺りを慎重に事務対応をしたいということで心がけているところでございますので、皆様方にも御理解をいただきたいというふうに存じ上げたいと思っております。

次に、5歳から11歳の小児用コロナワクチンの接種につきまして御説明申し上げます。

対象者、対象者数などは以前に御説明したとおりでございます。

6番目の接種体制につきましては、市保健センターで集団接種を行う、それから個別接種としまして、小児科を専用診療とする3つの医療機関にお願いができて、ワクチンの供給量により3週間で約1,000回ほどの接種を進めていこうというふうで、現在のところは進めておるところでございます。

7番目の今後の予定としましては、ワクチンの供給でございますが、3月20日までに1,250人、2,500回分が供給される予定となっております。この数字は、1,250人というのは、6,400人が対象者数としますと約2割の供給量ということで、現在のところは国から通知をいただいております。3月早々に入りまして接種券を発送したいというふうに思っております。接種開始は3月の中旬頃を予定しているところでございます。

以上で説明は終わらせていただきますが、今後も国からの通知等でちょっと変更になることがございますが、その辺はよろしくお願ひしたいということで、私からの説明は以上でございます。

○委員長（川合敏己君） ありがとうございます。

それでは、質疑がある委員の皆さんお願いします。

○委員（勝野正規君） おまかせ予約のほうで接種対象者が2万7,790人と、それで返信した人が1万6,734人と。

たまたま、自分は2人相談を受けたことがあって、何とか対応してもらったんですけども、要は制度を分かっていない御高齢の方でワクチンを接種しなければならないで返信したんだよとか、ファイザー社製、ファイザー社製で来て、今度武田・モデルナ社製ということを知らんかったということで、集団接種の現場で何かそういうことのトラブル、要は、来たけど武田・モデルナ社製やでやめたというような人とか、そういうような問題はなかったんでしょうか。

○新型コロナワクチン接種推進室長（渡辺博生君） おまかせ先行予約につきましては、委員御指摘のとおり2万6,000人の方にはがきを出しまして、1万7,000人の方から申請をいただいたということになっております。1月5日締切りということにさせていただきましたが、それ以降もたくさんの方がはがきを出されてきて、その都度電話で、ちょっと対応が難しいですということでお断りをしたのが1月の末ぐらいでございました。その中には、はがきの中にはいろいろファイザー社製がいいとかということを手書きで書いてあって返信をいただいているというところは私も目にしたところでございますが、当初のはがき等の文で一応モデルナということで指定をさせていただいている、それから4病院で指定をさせていただいているというところで、申請者に対してはそこを割り当てて4病院に割り振りをさせていただいたところです。

現状、病院へ接種に行ったときに、ああ、武田・モデルナ社製とは知らなかったわということは、私自身は特に各病院から報告は受けておりませんので、大きく言うと順調に進んでいるなあというふうには思っているところでございます。以上です。

○委員（勝野正規君） ありがとうございます。

もう一点、ちょっとこれは聞いたんですけど、武田・モデルナ社製の集団接種の希望が少なく、要は保健センターや何かで土曜の午後と、あと日曜の午前、午後かな、どこかを取りやめにして、要は縮小せざるを得なかったということもあったと聞いておりますけれども、今後のスケジュールに影響はないでしょうかね。そういうのがなかったというならそれでいいんですけど。

○**新型コロナワクチン接種推進室長（渡辺博生君）** おまかせ先行予約をさせていただいた関係で、武田・モデルナ社製ワクチンの4病院へ割り振ったわけですが、それとプラスアルファ、以前に御説明したとおり市保健センターでも武田・モデルナ社製を取り扱うよということで御説明をしたところでございます。ただ、正直言いますと、市の保健センターに武田・モデルナ社製ワクチンを予約された方というのは、おまかせ先行予約をした以外の方で、市の保健センターへ申し込むということになります。表の表を見るとこの8,864人のこの中で、市の保健センターの武田・モデルナ社製ワクチンを御予約いただくという方につきまして、正直少ないというのはございました。数十名程度ということで予約を承ったところでございます。ただ、数十名でも接種を希望されている方に対しましては、接種を進めているところでございますが、医療関係者の方にもお越しをいただいているということもございまして、先ほども申し上げたとおり先行接種で教職員の方とか、それから保育士の方等も併せて、また接種を進めているというところでございます。

ただ、委員御指摘のとおり、2月13日だったと記憶しておりますが、日曜日の午後の半日分につきましては現在のところ1回だけは取りやめたということは事実としてございます。以上です。

○**委員長（川合敏己君）** ありがとうございます。

よろしいですか。

○**委員（勝野正規君）** 大丈夫です。

○**委員長（川合敏己君）** 他に質問ございますか。

よろしいですね。

[挙手する者なし]

それでは、ほかに発言もないようですので、この件に関しては終了いたします。

次に、(3)市内小中学校における新型コロナウイルスの感染状況についてを議題といたします。

執行部の説明を求めます。

○**学校教育課長（今井竜生君）** よろしく申し上げます。

小・中学校における新型コロナウイルスの感染状況について御説明させていただきます。

資料は、資料番号3の表、裏になりますので、それを御覧ください。

まずは感染状況からです。

月別のグラフがあります。4・5月に1つの山、8・9月に1つの山、そして、今回の1・2月に大きな山が来ております。

今回は子供たちへの感染が大きいということ、先ほどの説明でもありましたので、10代の子、10代未満の子の感染が多かったということが分かっていただけだと思います。

それから右側のほうですけれども、学校別の小-1から小-11、中-1から中-5というふうにあります。学校別に見たところでも学校による差がかなりあります。多いところはかなり陽性者数が多くなっております。それから、この1・2月については学級内での感染もありましたので、数が増加しているところがあるということが分かっていただけだと思います。

具体的に1月・2月の感染者の数なんですけれども、冬休み明けから1月31日まででいきますと小学生で児童58名、中学生で生徒29名、先生方で8名ということなので、計95名を数えております。それから、2月初めから2月14日まででいきますと小学校児童が89名、中学校生徒が33名、職員が2名ということで、計124名ということですので、この2月になってから、かなりまた数が多いということが分かっていただけだと思います。

ただ、小・中学生の数を言いましたけれども、全て学級閉鎖を行ったというのではなく、事前にもう学校をお休みしていて陽性が分かりましたという子もいたりしますので、その子についてはほかの子の感染は考えられないということも判断できたので、そこは学級閉鎖にしていない部分もありますので、全部が全部学級閉鎖となったものではございません。

傾向等、様子なんですけれども、1月になって陽性者の数が増加してきたということ、それから、家族からの感染とともに学校内での感染と思われる事案も起きています。それから、感染拡大を防ぐために、陽性判明の報告を受けたところ、すぐに該当の学級を学級閉鎖にするというふうに対応しております。学校では、授業であったりとか、子供たちの活動を確認して、濃厚接触者の洗い出しをするということをして、保健所と連絡を取り合うという形で行っております。ただ、保健所も業務が大分逼迫しているということを伝えられていますので、学校と教育委員会のほうでかなり相談をしながら進めているような現状です。

学級閉鎖の目安ですけれども、陽性の子の最終登校日から5日間で対応しております。資料でいうと、先ほどの資料の裏面を見ていただきますと、黄色く塗ったところが学級閉鎖をしているところですので、ほぼ5日間程度になっております。短いところは、先ほども申しましたように陽性が判明したところから判断するんですけれども、その最終登校日が前のほうにある場合には学級閉鎖も少なくても済むような形になっていますので、少し対応の長さは違っております。中には5日より長い線があると思います。そこは、学級の中でほかの陽性判明者が出たということで、学級全体の自宅待機が延長しているものになります。

第6波よりも前の対応では、学級閉鎖の期間中に念のためのPCR検査を行ったり、それから濃厚接触者となった場合には該当者のPCR検査を実施するということをしていましたが、現在はそれができない状況になっておりますので、子供たちは、症状がない子については自宅待機して様子を見ているような状況になっています。

まん延防止等重点措置区域の指定期間が3月6日までに延期されたということで、今回また通知を出したんですけれども、対策を強化した対応をするということ、それから先週から

は部活動の中止を指示しております。それから、感染対策の再徹底を呼びかけているところ  
です。

また子供たちの様子でいうと、学校へ登校した後に体調が悪くなって早退して、病院等で  
検査をしてもらおうと陽性が判明という急に分かるようなケースが多いので、タブレットも事  
前に持ち帰れるようなふうにして、自宅でタブレットを使えるようにしてほしいというこ  
とで学校に依頼をしているところです。

学級閉鎖中の学校の対応として、タブレットを活用した取組も進めているところです。い  
ろんなやり方を紹介しながら、学年であったりとか学校に応じた取組をしていますので、こ  
れが全て全部やっているというわけではありませんが、幾つか紹介させていただくと、朝の  
会、帰りの会をタブレットで行って、学習の指示をしたり見届けをしたりすること。それか  
ら、例えば1・2時間目はT e a m s等を使って双方向の授業を行ったりする形にして、あ  
とのそれ以降の時間は、例えば宿題みたいな形でドリルをしなさいよというような指示をし  
てやらせるというようなこともあります。授業の配信をして、実際に授業しているところを  
自宅で見られるようなこともしております。あと、NHK for Schoolというような番組があり  
ますので、その番組を利用して、番組を見てその感想を書いたりするようなこともやってお  
ります。それから、eライブラリというドリル形式のものを使って習熟をしていくような形  
もやっております。今の時期ですと、学年末になってきていますので、学習も終盤になって  
きていますので、例えば1年間の復習であったりとか計算練習、漢字練習などもまとめの時  
期になってきていますので、そういうドリルの活用であったり、プリントの活用で復習を図  
るような勉強は進めることができているような状況です。

あと、教職員については、ワクチン接種を、先ほどもお話にありましたように、先行して  
行わせていただいておりますので、2月12日から進めていただいておりますし、予防的P C  
R検査の実施ということで、それも検査キットを配る形で、2月15日、今週から2週間の間  
隔を置きながら実施するというようなところを、これは希望者ですけれども、行うようにし  
ております。

私からは以上です。

○委員長（川合敏己君） ありがとうございます。

では、この件について質疑のある方お願いします。

○委員（伊藤健二君） すみません、御苦労さまです。

表の見方というか、意味するところがちょっと私のほうの頭がようついていけないので、  
この資料3の中の学校別陽性者数のこのグラフ、大変苦労されて作られたということはもう  
ありありと分かるんだけど、初め、学校別と書いてあるんで、例えば人間の数の多い蘇南中  
学校は突出したところのこれを指すのかなあなんて勝手な解釈をしたけど、どうもそうでは  
なさそうだと。それでよく見ていくと、小学校に第7クラスがあつて、7、8、9、10、11、  
いろんな各種性格別の違うクラスがありますよね、学年というか、ジャンルが。そこがここ  
に示されているのかなあというふうに思うので、小学校の1から6までと、7から11の意味

するところは何ということに対する、まず解説が1つ。

それで、もう一つは、中学校、同じように4、5についての部分。これが、グラフの大小は結局人数だと思うんだけど、この色の違いが月で表示されているという3次元の表を上手に作られたんで、ちょっとこれ簡単な解説をお願いします。

○学校教育課長（今井竜生君） 小ー1、小ー2という分け方は学校です。小ー1が何々小学校、小ー2が何々小学校という学校が別で、11学校小学校がありますので、中学校は5校ありますので、その分け方です。

色は先ほど言っていたように、月になります。ですから、小ー10という学校は多いですということですし、中ー1という学校は多いですということになります。

○委員長（川合敏己君） ほかにございますか。

○委員（板津博之君） 裏面の先ほどの市内小・中学校の学級閉鎖等の状況という表ですけども、学年閉鎖になっている地域もあるんですが、そののどうなったら学年閉鎖にするかという判断は、何か尺度があれば教えていただきたいんですけども。

○学校教育課長（今井竜生君） 学級閉鎖は、まず原則は学級閉鎖なんですけれども、学級閉鎖が複数学級出た場合には学年閉鎖という基準になっておりました。が、また新しい通知が来まして、もしかすると例えば1・2組でははやっているんですけども3・4組でははやっていないような状況も出てきているので、例えば2学級が学級閉鎖になったとしても3・4クラスは特にそこまでの症状がないということであれば学年閉鎖しなくてもよいという判断が最近また指示されておりますので、機械的にそういうふうになるわけではございません。

それから、学校の休校についても、学年閉鎖を幾つかの学年でした場合には休校も考えていくという基準がありますけれども、それについても今のような判断になりますので、そうすると学年閉鎖自体が少なくなってくると思いますので、今の基準で休校というのはすぐにはならないと考えています。以上です。

○委員（板津博之君） 文部科学省のほうも、恐らくそういうふうに随時またいろんな通達が来て今後も変わっていくかとは思いますが。

たまたまですけども、うちの娘が中2なんですけど、学年閉鎖になったときにオンライン授業をタブレットを持って自宅でやっていたんでちらっと見ていたんですけど、なかなかうまいことやっているなあと思って見ていたんですけど、それはほぼ一方通行というか、先生が授業をされて、先生の映像は入って、もちろん授業の風景は入ってくるんですけど、子供たち児童・生徒は音声のみみたいな形でやってみえたと思いますし、ちゃんとオンライン、タブレットを使ってやっているんだなあということは確認できましたんで。

ただ一つ危惧しているのが、先ほどの学校別の表を見てもそうですし、この細かいグラフのほうでもそうなんですけど、学校によって学級閉鎖の数だったり期間だったり偏在しているところと、小学校の11は多分これゼロですよ。そうすると、学習の量だとかにそれを補えるだけの担保ができていのかどうかというところがちょっと不安になるんですけど、その辺は教育委員会としてどのように補完されているのかというのを教えていただけますか。

○学校教育課長（今井竜生君） 御心配のとおりで、かなり数が出ている学校については、例えば担任の先生も自宅に見えて、自宅からの配信ということもしていかなくちやいけないということがありますし、それから先生によっては、家庭のお子さん、自分のお子さんが何らかの形で休まなきゃいけないことで、先生も休まなきゃいけないような状況にある方も見えて、なかなか一律に全部が同じような条件でやるということが難しいというのは分かります。

今日も話をしていたときに、学校によっては、例えば担任の先生がやることと、学校に見える職員で対応して授業を流すとかということもやっていくんですけども、御指摘のとおり、数が多くなれば多くなるほどそんなに手はありませんし、できることも限られてくると思うので、そこは本当に対応をできるだけの範囲でやっているというところがありますので、もしかすると全部が同じレベルかと言われるとそこは難しいとは思いますが、今は本当にやれることをやっていたらいいというところですよ。

私たちのほうも、どんなことができたかとか、何日間オンライン授業がやれたかなあということについては確認して実績を取っていきますので、そこで確認はしていくということにしています。以上です。

○委員（板津博之君） ありがとうございます。

これ全国的にそうなんでしょうけれども、学校現場の教職員の皆さんも本当に大変な思いで、自ら感染する中で子供たちを見ていかななくてはいけないということで、よくそこは分かりますので、何とかそんな中で一生懸命格差が生じないような努力はしていただければなあと思います。

最後に1点だけ。先ほど2月15日から検査キットを希望者に配付するということです。これはもうある程度数を確保されていて、どれだけ希望されるか分からないですけど、その辺の準備というのはされているかというのは教えていただけますか。

○学校教育課長（今井竜生君） 2月4日が締切りだったんですけども、予防キットを使うかどうかという希望調査をしまして、その次の週にもう業者とのやり取りをして、今週からなんですけれども、業者から物が送られてくる、検体を採ってまた送り返すというようなやり方をして、それをまた2週間空けてまた次のをやるというふうなので、2月のこの週と3月の頭の週、真ん中の週というような形で、希望された方にはそれができるといふようにやり取りをしています。以上です。

〔「先生だけですか、生徒はやらない」の声あり〕

これは教職員に関わってのことです。

〔「ああ、そういうことですか」の声あり〕

ごめんなさい。教職員に関わってのことです。

○委員長（川合敏己君） ほかにございますか。

○委員（勝野正規君） すみません、いよいよ高校入試ですけども、県のことなんで分からないなら分からないでいいんですけども、隔離期間の人とか、陽性者の方とか、後からどこかでやれるとかそういうシステムはあるんでしょうか。

○学校教育課長（今井竜生君） 追試験という形で日程を組まれていますので、そこはやれないようなことにはならないようになっております。

ごめんなさい、今ちょっとスケジュールがこうなっていますということまでちょっと言えないですけど、その対応は前に説明もございまして、中学校のほうにも伝えておりますので、その対応になっております。以上です。

○委員長（川合敏己君） 他に。

○副委員長（中野喜一君） ちょっと間接的に聞いたんですけども、給食がなくて困っているということを聞いたんですが、現状はどのようになっているんでしょうかね。

○学校教育課長（今井竜生君） 給食がなくてというのは、ちょっと質問が分からなかったです。ごめんなさい。

○副委員長（中野喜一君） 給食が出ないんでお弁当を持って行っているというふうにならんと間接的に聞いたんですけども、これは、給食に関しては今どうなっていますかね、今現在。

〔発言する者あり〕

○教育委員会事務局長（渡辺勝彦君） 今こちらで把握している限りでは、給食を止めて弁当をお願いしているということは聞いていないです。

〔「聞いていないですか」の声あり〕

はい。ただ、先ほどみたいに、例えば午前中に感染者が分かりました、直ちにお子さんを帰さないといけない、給食を食べる前にお返しするということがあるので、その場合は、給食の準備はできているんだけど子供たちは帰っていくので、家で何らかのお弁当なり何かを食べないといけないということが発生していることはあると思います。

〔発言する者あり〕

○委員長（川合敏己君） ほかにございますか。

山根委員、よろしいですか。

○委員（山根一男君） 大丈夫です。

○委員（伊藤健二君） ちょっと、さっき言いそびれたのでごめんなさい。

1番の感染者の市内発生状況に絡んでの話なんですけど、何らかの事情で本人が熱発して感染したということが分かってお医者さんにかかります。そうすると、お医者さんは新型コロナウイルス感染症のせいなんだと思うんだけど、特別解熱剤だとか鎮痛解熱剤だとか、薬ってくれないそうなんです。その話を聞いたのは、愛知県の北部というか尾張小牧地域の知人がそう言っていたんだけど、自宅療養者がいて、それは多分岐阜県でも同じ対応をするんだと思うんですけど、熱が出てきて異常を感じて受診して、それで自分が検査したら陽性だった……。

○委員長（川合敏己君） すみません、これって何の質問ですか。学校、教育。

○委員（伊藤健二君） 学校じゃない。だから1番のほう、ごめんなさい。

○委員長（川合敏己君） であれば、申し訳ないです。議案が済んでしまっているんで、申し

訳ないです。

ほかにございますか。

[「なし」の声あり]

それでは、発言もないようでございますので、この件に関しては終了いたします。

ここで、議事の都合により暫時休憩といたします。

以降の議事は委員のみで協議しますので、執行部の方は退席いただいて結構です。ありがとうございました。

休憩 午後 3 時 28 分

再開 午後 3 時 29 分

○委員長（川合敏己君） それでは、会議を再開いたします。

次に、2. 協議事項、(1)議会報告会のまとめについてを議題といたします。

お手元の資料 4 として、議長に提出しました実施報告書をつけておりますので、これは副委員長に取りまとめをお願いしましたので、副委員長のほうからちょっと一読をお願いします。

○副委員長（中野喜一君） 要支援者（約2,300人）の見守り訪問時に安否の確認やチラシの配付等を実施しているが、訪問対象者からコロナを理由に訪問を拒否された事例はありません。

令和 2 年 3 月に訪問を中止して、心配な人のみ電話で安否確認。4・5 月はチラシのポスティングと電話での安否確認。6 月以降は旧来どおりの活動に戻りました。

特別定額給付金の申請確認及びコロナワクチン接種の予約確認は、地域包括支援センターに連絡して対応を依頼しました。

高齢者孤立防止事業として、当年度に80歳到達の方（約1,100人）を訪問し、生活状況などを確認し、必要に応じて関係各所につなぎました。訪問時にはパンフレットを渡すだけでなく、記念品を添えられればよりよいのではないかと思いました。

可児市は、年 2 回の研修会や必要な個人情報を提供してもらえるため、近隣の市町村に比べて活動しやすい環境にあると思います。以上です。

○委員長（川合敏己君） ありがとうございます。

ということで、皆さん参加していらっしゃいましたので、よく分かるかと思えます。

特にこの内容から、議会報告会においてこういった意見が出てきたわけなんですけれども、代表質問につなげるべき意見等があれば発言をお願いしたいんですけれども。

コロナ禍での活動ですので、ちょっといろいろと制約がある中で、難しい中やっつけらっしゃると思いますんでね。執行部に対しては、ちょっとアプローチをするに何かちょっとこう、物があるといいなというような、きっかけづくりとしてあればいいなというような意見は、確かに要望的な形では出ておりましたけれども。

特に委員会代表質問として取り上げるべきことはございませんですかね。

○委員（板津博之君） 今委員長おっしゃられましたけど、最後の一文にも、可児市は情報提

供をしっかりしてもらえるので近隣の市町村に比べて活動がしやすいという前向きな御意見もありましたし、1つ上げれば、パンフレットを渡すだけではなくて何か記念品を添えられるといいなというのは切実な思いとして意見があったと思いますので、それは執行部も同席して聞いてみえたんで、メモっておられたんで、あえて代表質問するまでのレベルではないかなあというふうに思うんです。今回はそういうことで、特には代表質問をする必要はないんじゃないかと思います。以上です。

○委員長（川合敏己君） よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

では、そのようにさせていただきます。

ほかに御意見ございますか。

○委員（勝野正規君） この提出資料の4年の1月11日ってどういう日なのかなと。実施したのは5日なんですけれど。

〔「実施報告書を提出した日じゃないの」の声あり〕

○委員長（川合敏己君） 提出した日です。

開催日は1月5日となっていますね。で、令和4年1月11日に可児市議会議長に。

ほかにございますか。

〔挙手する者なし〕

それでは、発言もないようでございますので、この件に関しては終了いたします。

それでは、これで教育福祉委員会を閉会いたします。お疲れさまでございました。

閉会 午後3時33分

前記のとおり会議の次第を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和4年2月16日

可児市教育福祉委員会委員長